



ヨゼフ アベイヤ 司教認可
発行所 福岡教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡教区
編集人 山元 眞
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡教区
定価 1部70円

4月の意向

【教皇様の意向のために祈りましょう】
【教皇の意向】 女性の役割
【日本の教会】 日本司教団アドリミナ

皆さん、イエスのご復活のお喜びを申し上げます。
主イエス・キリストの復活の光のうちに



ほぼ二千年前、ある金曜日の3時ごろ、ローマ帝国の隅にあった、ユダヤ地方の首都エルサレムの外れで、十字架の上で不名誉な死に追いやられた人が、日が沈む前に葬られました。皮肉を交えて「ユダヤ人の王」とさげすまれた「ナザレのイエス」です。ところが週の初めの夜明けに墓へ走った人たちは、墓が空であつたという光景に呆気に取られました。しかし、間もなく婦人たちが始め、ナザレのイエスの弟子たちも、「イエスが生きておられる」という驚きの「証言」を声高らかに宣べ伝え始めました。「このような夢物語はあるはずがない」。それは、人の死に直面積して

主のご復活
おめでとうございます
私は復活しあなたと共にいる。あなたはわたしの手に手をのべられた。あなたの知恵ははかりがたい。アレルヤ。(復活節の入祭の歌 典礼聖歌345)

4月13日(土)
司教座聖堂(カテドラル大名町教会)
献堂記念日

教区司教が典礼を司式するときに座る椅子を司教座(カテドラル)と言い、その司教座がおかれた教会堂を司教座聖堂と言います。司教座聖堂は教区の母聖堂と呼ばれ、一小教区の聖堂であることを越えて、司教と共に全教区民が集うところです。その献堂記念日は教区の祝日です。現聖堂は1986年4月13日に献堂されました。福岡教区の神の民の発展のため心を合わせてお祈りください。

今年4月14日(日)が「カテドラル特別献金日」です。福岡教区の宣教活動の要であるカテドラルの維持管理のための献金をお願いいたします。

熊本地震から8年

2016年4月14日、16日に熊本・大分地方を襲った地震から8年が経ちます。今もなお悲しみ、苦しみ、不安のうちに生活を送られる方のために祈ります。すべての人の苦しみを担われ、復活の希望と光を示してください。私たちがあかすことができますように。また、多くの支援、つながりを心より感謝いたします。(福岡教区震災被災者支援室)

日本のシノドスのつどい

淡雪が舞った3月7、8日、東京の日本カトリック会館で「日本のシノドスのつどい」が開催されました。日本の全司教、各教区から信徒1人、奉獻生活者1人、司祭1人(計68人)が集まり、シノドス特別チームの同伴で「霊における会話」の手法を用いて、第一会期の「まとめ」

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「霊における会話」

特徴的だったのは「祈り」の時間が随所にちりばめられていることでした。1時間の説明の後半は黙想。「分かち合い」の時も2人話す毎に1分間の沈黙の時間がああります。90分の分かち合いの中で、一人3回約3分の発言の機会があり、2回目は「今聴いた全てのことを分かち合います。『聴くこと』がとても大切にされています。そして、『聴くこ

「私たちの事」として

「私たちの事」として、受けた言葉と影響に対して、度々訪れる沈黙の時に、聖霊の光を願い、行動の源をともに探しました。最後に各グループが提出した文章をAIに読み込ませ、シノドス第二会期に提出するドラフトが作られました。その後、感謝ミサを捧げました。これからそれぞれの小教区等で一人ひとりが頂いている聖霊を生かし、希望を持って歩んでいく旅が進んでいくでしょう。報告|| Sr.藤田優香(礼拝会)

「それが本当なら、パウロの叫びは、私たちの叫びにもなりません。『福音を告げ知らせないなら、私は不幸なのです』(第一コリントへの手紙9・16)というその「証言」が、「本当のこと」を語っていると私たちは信じています。私事で恐縮ですが、1967年12月23日に司祭として誕生し、翌年秋に日本に渡り、2年後1970年8月に福岡教区へ派遣されました。54年もの間に恵まれた人生を送ることが

主に北九州地区で、教区の福音宣教に協力しようとい心掛けてきました。数え切れない程の人のとの出会いのおかげで、少しずつ司祭になれたと言いたいところですが、その理想に近づくまでの道は、自分にはまだまだ程遠いもので、果たせない水平線のように見えます。福岡教区の中の54年間は、あつという間に過ぎ去ったからでしょうか。振り返って見れば、司祭としてだけではなく、人間として、実に

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「私たちの事」として

「私たちの事」として、受けた言葉と影響に対して、度々訪れる沈黙の時に、聖霊の光を願い、行動の源をともに探しました。最後に各グループが提出した文章をAIに読み込ませ、シノドス第二会期に提出するドラフトが作られました。その後、感謝ミサを捧げました。これからそれぞれの小教区等で一人ひとりが頂いている聖霊を生かし、希望を持って歩んでいく旅が進んでいくでしょう。報告|| Sr.藤田優香(礼拝会)

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「私たちの事」として

「私たちの事」として、受けた言葉と影響に対して、度々訪れる沈黙の時に、聖霊の光を願い、行動の源をともに探しました。最後に各グループが提出した文章をAIに読み込ませ、シノドス第二会期に提出するドラフトが作られました。その後、感謝ミサを捧げました。これからそれぞれの小教区等で一人ひとりが頂いている聖霊を生かし、希望を持って歩んでいく旅が進んでいくでしょう。報告|| Sr.藤田優香(礼拝会)

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「それが本当なら、取り調べを受けたペトロとヨハネの言葉を私たちが言葉にもすることができません。私たちは、見たこと聞いたことを話さないではいられないのです」(使徒言行録4・20)



日本での福音宣教54年「感謝ミサ」(小倉教会) (左から) 青木師・ベリオン師・ルーカス師

時の話題

マリアに倣う女性として、母として。この数年、活動が制限されていた教区行事が昨年度から活発に動き始めました。私が籍を置く福岡地区カトリック女性の会も教区

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「私たちの事」として

「私たちの事」として、受けた言葉と影響に対して、度々訪れる沈黙の時に、聖霊の光を願い、行動の源をともに探しました。最後に各グループが提出した文章をAIに読み込ませ、シノドス第二会期に提出するドラフトが作られました。その後、感謝ミサを捧げました。これからそれぞれの小教区等で一人ひとりが頂いている聖霊を生かし、希望を持って歩んでいく旅が進んでいくでしょう。報告|| Sr.藤田優香(礼拝会)

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

時の話題

この数年、活動が制限されていた教区行事が昨年度から活発に動き始めました。私が籍を置く福岡地区カトリック女性の会も教区

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

「私たちの事」として

「私たちの事」として、受けた言葉と影響に対して、度々訪れる沈黙の時に、聖霊の光を願い、行動の源をともに探しました。最後に各グループが提出した文章をAIに読み込ませ、シノドス第二会期に提出するドラフトが作られました。その後、感謝ミサを捧げました。これからそれぞれの小教区等で一人ひとりが頂いている聖霊を生かし、希望を持って歩んでいく旅が進んでいくでしょう。報告|| Sr.藤田優香(礼拝会)

「祈り」「聴く」教会のあゆみ

「祈り」「聴く」教会のあゆみ。報告書から、私たちの教会の現状を話し合いました。はじめにシノドス特別チームから、「霊における会話」と「まとめ」報告書に関する説明がありました。続いて「教会は宣教である」、「教会の生活と宣教における女性」、「教会の旅の主人公である貧しい人々」等のテーマに

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

先日、求道者と会い話を聞く貴重な機会があった。キリスト教に改宗する動機などを率直に語る中、家族がそれをどう受け止めたかという点に触れた。「自分の周りにキリスト教の信者がいないし家族は仏教なので、どう思われるかを心配していた」と真情を吐露した。結局、その懸念に十分な根拠があった。家族らはキリスト教を、話題の「統一教会」と混同してしまつたかのように「献金がやばいよ」とも言われたという。また、やつてはいけないこと(戒禁制約)が多い印象が強く、「お酒が飲めなくなる」などと注意されたそう。求道者の周りから「教」が付いているものは、怖いよ」と、あらゆる宗教への警戒心を覚えさせようとしたという。そこで日本語の特徴に気づいた。キリスト教や仏教、ヒンドゥー教、極端な場合は「オウム真理教」など、言葉だけでは「五大宗教」と「新興宗教」は区別できず、聖なる普遍の教会であるカトリック教会も目立たないのは現状だ。英語では「Christianity」(キリスト教)や「Buddhism」(仏教)、「The Unification Church」(統一教会)など、それぞれの言葉に共通性がないため、間違つて「十把一絡げ」は不可能だ。全ては言葉のせいではないが、この求道者の経験から考えると、キリスト教に対する誤解や思い込みがあるようだ。キリスト教の正体は「戒禁・制約」どころか、「キリストは私たちを自由の身にしてください」なのです。(中略) 奴隷の軛に二度とつながれてはなりません(ガラテヤ5:1)ということなのに。(E)

福岡教区宣教司牧方針を受けて

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて、具体的な活動を紹介しています。

「宣教司牧方針」は上記QRコードからご覧になれます



「シノドス実践 『共に歩む教会』 - 交わり、参加、宣教」大名町教会



聴き合うことは喜び！

大名町教会では1月から毎月、全3回シリーズで、主日のミサ後に「シノドス実践 『共に歩む教会』 - 交わり、参加、宣教」というテーマでの学習会を行いました。教区信徒の皆さんに同伴していただき、「交わり」「参加」「宣教」という三つのキーワードについて分かち合いながら、シノドス的（共に歩む）とはどういうことを考えました。

賛歌と祈りの後、その日のキーワードに関連するみことばの朗読と司祭の講話を聴き、数分間、沈黙します。そして、思いめぐらし、感じたことを5、6人のグループに分かれて一人ずつ分かち合い、お互いに、語られることにただ耳を傾けました。二巡目も、少し沈黙の時をもって、新たに気づいたことや心の動きを分かち合いました。

毎回40人前後の参加があり、回を重ねる毎に少しずつ増えていきました。そして、「お互いをいつくしみ、助け合って共同体を作っていきたいと思った」、「表現できない何かを具体的に考える集いで、ありがたく思った」、「ぜひ、続けてください」などの声に加えて、「他者の話を聴くことで、大きな気づきが自分たちに起こることを経験しました」など、聴き合うことが喜びの体験であったという感想も多く寄せられました。

同時に、分かち合いの進め方についての学びを深める体験としても大きな恵みをいただきました。「共に歩む教会」としての新たな一歩につながりますように。

大名町教会 信徒会長 吉田 俊雄



涙雨ではない。地を潤し、またいつの日か、この地に豊かな実を結ぶための恵みの雨がそぼ降る中、福岡カトリック神学院の閉校式・感謝ミサは静かに始まった。神学院の聖堂には、長崎教区司教5人の他、スルピス会総長・カナダ管区長代理のハイメ・モラ神父、東京カトリック神学院院長の稲川圭三神父、同窓の司教・司祭、各教区事務局長、養成に尽力した講師、陰の奉仕で支えた修道者、職員ら130名程が集い、それぞれの想いを胸にとも

に祈った。冒頭、主司式の中村倫明大司教（長崎大司教区）は、「閉校式ということで、悲しみと寂しさでいっぱいですが、まづ何よりも感謝しないといけない」と、スルピス会、そして教員、職員、恩人、後援会に謝辞を述べた。それから「閉校は、私たち司教が、この神学院に神学生を送ることができなかつたからです。本当にお詫言ひ申し上げます」と深く長い時間を下げた。

ミサの説教を務めた中野裕明司教（鹿児島教区）からは、戦後求道者が増えて教会が求められ、司祭養成が急務だった当時、カナダから来日し、その養成に関わってきたスルピス会の司祭たちや、日本人の教授や院長たちと、その功績が紹介された。また、自身が関わってきた養成経験の分かち合いとして、日本カトリック神学院が誕生し、東京と福岡に2つのキャンパスができた歴史に触れ、養成のビジョンの違い（自己養成か、他人から養成されるものか）や、そもそも少子化による数そのものの減少から、家庭からの召命の大切さ、神の民全体で役割を担うなどの課題が提起された。

スルピス会は、教区司祭養成のために設立されたカトリック教会内の教育団体で、神学院の設立、運営を主な活動としている。拝領祈願後に行われた感謝式で、長崎教区管区を代表し挨拶に立った森山信三司教（大分教区）は、「小教区では、年長者から乳幼児に至るまで、様々な方との出会いがあり、司牧の喜びを実感します。しかし、神学院というある意味閉ざされた空間で、日々学生と向き合い、人を育てることは忍耐を要する務めだと思えます。人間を養成するためには、時間も要しますし、何よりも養成する側の人間性が問われるという意味で、ごまかしのきかない、犠牲の多い務めだと思えます。そのような務めに生涯をかけてくださいました神父様方に深く感謝を申し上げます」と謝意を表した。また、スルピス会がこれまで神学院と神学生のために捧げた援助、熱意を、今後総合的な人間の養成の場としてこの地で継

多くの神学生が司祭を目指して学び、寝食を共にした福岡カトリック神学院（旧福岡サン・スルピス大神学院）。今春の閉校にあたり、長きに渡りこの地で司祭養成のために生涯を捧げてきたサン・スルピス司祭会（以後スルピス会）に感謝の意を表すため、2月23日（金・祝）、閉校式ミサと感謝式が長崎教区管区主催で執り行われた。福岡サン・スルピス大神学院は、第二次世界大戦の後、1948年、福岡市浄水通にあった聖母訪問会の建物を譲り受けて開校。神学生は70人、養成者は5人であった。養成は、戦前33年より神学生の指導に当たっていたスルピス会カナダ管区に委ねられた。51年、現在地（福岡市城南区松山）に新校舎が完成して移転。53年、現聖堂が完成、11月に献堂式が行われた。開校以来73年、ここで学んだ神学生は約8000人。約3000人が司祭に、14人が司教に叙階され、主に西日本各地で宣教司牧に当たっている。

主よ、あなたに委ねます。
ありがとうございます サン・スルピス司祭会
福岡カトリック神学院、司祭養成の歴史に幕を降ろす

続されるよう、祈りと支えを願った。続いて、感謝の花束が、ハイメ・モラ神父、現神学院院長の牧山強美神父（長崎大司教区）、教員を代表して深堀純氏、職員を代表して峯昭男氏の4人に贈呈された。ハイメ・モラ神父は、90年前、福岡教区のアルベール・ブルトン司教から神学院創立の要請を受けたが、それは、日本語で働くように呼ばれ、すべてを学び始め、すべてを築き上げるという、カナダ人たちにとっては「狂気の使命」であり、信仰なしには踏みだすことのできない船出であったこと、また、スルピス会カナダ管区にとっては、最初の海外への宣教事業であり、その後を司祭養成に託すこととなったことなどを紹介し、最後に「日本の教会に奉仕するために、サン・スルピス司祭会は、いつもここにとどまり続けます」と言葉を贈った。



感謝の花束贈呈 深堀氏・モラ神父・牧山院長・峯氏（左から）

教区創立100周年 取り組み決まる

2月18日（日）、第2回教区100周年委員会、実施スケジュールと各専門委員会（典礼・記念誌・行事・広報・信徒養成）の取り組み及び委員長（案）が決まった。4月1日の活動開始を予定している。具体的な案として記念誌に各小教区を写真入りで紹介する、巡礼指定教会の設定、殉教地の紹介、記念の祈り、リレー行事、宣教奉仕者の養成、記念ミサ、青年中心の事業、社会的弱者に対する事業、記念の施設・物品、お祭り（フェスティバル）、広報活動、学びの場の設置、外国の教区との姉妹関係、教区外・信徒外への活動、地区や小教区での活動等が考えられている。これらの事業は各専門委員会において詳細を詰めることになる。

また、教区の青年のために、カテドラル大名町教会に青年センター（仮称）を設置予定で、青年の活用を期待している。

1981年、聖ヨハネ・パウロ2世教皇が来日した時に「過去を振り返ることは未来に責任を持つことである」と話されたように、今を生きる私たちが教区の今までの歩みを振り返り、先人の思いを引継ぎ、未来に生きる青年や子どもたちに希望の道しるべを残すことが、教区100周年の事業に取り組む意義だと思う。教区の全ての信徒が兄弟姉妹として連帯し、各小教区での取り組みを通して、100周年記念行事を、自分の歴史として共に過ごすことが大切だと思う。

教区100周年委員会委員 大水健二（新田原教会）

式最後の挨拶を担った牧山院長は、「祈りの終わりに、『まことにそうです』という言葉を込めてアメンと唱和しますが、『もう終わりですよ』という合図もあると思います。この神学院の長い営みをアメンで終わらせようと思えます」と話し始めた。そして、多くの祈りがこの場で捧げられてきたこと、同窓司祭たちには「胸に手を当てて

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

サンパウロ 福岡宣教センター
営業時間: 10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
任でもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

知りたい！
福岡教区内の
修道会・宣教会
番外編

福岡教区では3年前より毎年、2月2日「世界奉獻生活の日」に合わせ、講話と感謝ミサを行っています。今年も、2月3日(土)カテドラル大名町教会で行われ、司祭・修道者・信徒約100人が集い、ともに祈りを捧げました。今号では、その時にヨゼフ・アペイヤ司教が語った奉獻生活についてお届けします。

奉獻生活について

奉獻生活について語るアペイヤ司教



すべてのキリスト者は同じ洗礼を受けて、イエスが示された道を歩むように招かれています。堅信を受けて、皆が福音を証し、伝えるように派遣されています。主の食卓を囲み、皆がキリストご自身の命によって養われています。皆が「イエスの弟子」です。これこそ私たちの根本的なアイデンティティです。

この基本的なアイデンティティを生きる道は、大きく分けて基本的に三つあると言えます。信徒として、聖職者(司教、司祭、助祭)として、奉獻生活者として。

奉獻生活者は、教会と社会において、イエス御自身が選んだ生き方を自分が生きる道として受け入れ、清貧、貞潔、従順の三つの誓願を通して神への奉獻をします。共同生活を通して、福音が生み出す絆の深さを体験し、現代社会において証し、必要とされる所へ宣教に向かい行くように常に心がけています。奉獻生活にはもう一つ「在俗会」があります。在俗会の会員は、世俗の中で生活しながら、愛の完成を目指し、特に内部からこの世の聖化に貢献するように努めます。

現在、福岡教区には、男子修道会が9(22人)、宣教会が3(6人)あります。女子修道会は18(212人)、在俗会は4(19人)。高齢者の方が多いです。男子修道会の場合、70歳以上の修道者は11人です(宣教会の場合は、6人とも75歳以上)。女子修道会と在俗会の場合は80歳以上109人(そのうち、5人は100歳以上)。修道院の閉鎖を考えている修道会は、今のところ3あります。私が福岡教区に赴任してからこの5年の間に、男子修道会一つと女子修道会三つが閉鎖されました。

奉獻生活者の証は、神に心を向ける大切さを絶えず私たちに呼びかけています。その奉仕には年齢は関係ありません。また、人々に寄り添って、真剣に関わっていることを見ますと、私自身の生き方と司牧奉仕が問われ、同時に励まされます。

奉獻生活の生き方は美しいもので、現代社会において大きな意味を持つものです。この道に呼ばれている青年が、その呼びかけに心を開いて神に信頼し、示される道を歩むように励ましたいと思います。(文責：編集部)

2024年、在日ソウル大司教区海外宣教司祭の公式集いが2月19日(月)から21日(水)まで、熊本地域で開かれました。日本のカトリック教会に派遣されて生活しているソウル大司教区の神父たちが集まって、司牧体験の分かち合いと親交の時間を持つ今回の集いには、総勢8人が参加しました。その中には特別にソウル



帯山教会共同体の皆さまと

在日ソウル大司教区海外宣教司祭の集い

その後、グ・ヨビ司教様は2月19日(月)から海外宣教司祭の集いに参加され、日本に派遣されて司牧している神父たちを励まされました。また、このメンバーの中で公式集いが開かれる前に熊本にみえたグ・ヨビ司教様はカトリック帯山教会で主日ミサを捧げ、信者さんたちの歓迎の中で感謝の時間を過ごしました。ある信者さんは司教様の訪問について「短期間のお目もじでしたが、私の印象に残ったのはミサ中の司教様の眼差しでした。父親が我が子を見守る愛しい眼差し、ひいてはイエス様の慈愛の眼差しを連想させられました」と言われ、司教様の訪問に感謝していました。

大司教区海外宣教奉仕局のソン・ヨンホ局長神父様と海外宣教担当のグ・ヨビ司教様がいらつしやいました。このメンバーの中で公式集いが開かれる前に熊本にみえたグ・ヨビ司教様はカトリック帯山教会で主日ミサを捧げ、信者さんたちの歓迎の中で感謝の時間を過ごしました。ある信者さんは司教様の訪問について「短期間のお目もじでしたが、私の印象に残ったのはミサ中の司教様の眼差しでした。父親が我が子を見守る愛しい眼差し、ひいてはイエス様の慈愛の眼差しを連想させられました」と言われ、司教様の訪問に感謝していました。

2月23日(金・祝)、大名町教会聖堂に長崎大司教区の古巢神父をお招きし、福岡教区信徒使徒職協議会主催による講演会を開催した。演題は「元和年間・殉教者から」の言つて―旅する教会の明



講師 古巢神父

福岡教区信徒使徒職協議会主催講演会
江戸の大殉教と今の教会の現状

江戸での三つの大殉教の背景、実情を通して、今の教会と私たちの信仰のありようが照らし出された。日本の教会、そして自身が所属する長崎大司教区の現状は惨憺たるものであると、古巢神父は明言される。「奇しくも日が重なった福岡カトリック神学院の閉校も、その一つの表れです。福岡教区はどうですか」との問いかけを、「信徒使徒職」の担い手として胸に刻む。

2月21日(水)の公式日程を終えた後、翌日には福岡へ行ってアペイヤ司教様に会うなど、個人日程を消化して大阪大司教区へ移動し、ソウル大司教区神父たちの司牧地を訪問されました。お忙しい中、日本国内の司

た、ミサ・司牧分かち合いプログラム・親睦の時間に共にいてくださり、神父たちと意義深い時間を過ごしました。グ・ヨビ司教様は神父たちに「イエス様が父である神様のそばに留まり御父に祈り一致をされたように、皆さんもイエス様のそばに留まり、イエス様と近づきになる恵みの

時間になるように努めてください」とおっしゃいました。2月21日(水)の公式日程を終えた後、翌日には福岡へ行ってアペイヤ司教様に会うなど、個人日程を消化して大阪大司教区へ移動し、ソウル大司教区神父たちの司牧地を訪問されました。お忙しい中、日本国内の司

牧地を訪問していただき、祈りと激励で応援してください。グ・ヨビ司教様に感謝申し上げます。あわせて司教様を喜んで迎えてくださった、カトリック帯山教会の信者さんたちにも感謝の言葉を申し上げます。手取・帯山教会 助任 キム・ソンドン神父



大勢の信者が集まり、熱心に耳を傾ける

最後に、講演後の感謝ミサの中で能登半島地震被災者のために募った献金が、計55,411円にのぼりましたことを、心からの感謝とともにご報告いたします。福岡教区信徒使徒職協議会書記 辻部大介(笹丘教会)



「イエス様」と私たちが過ごす豊かな実りのとき

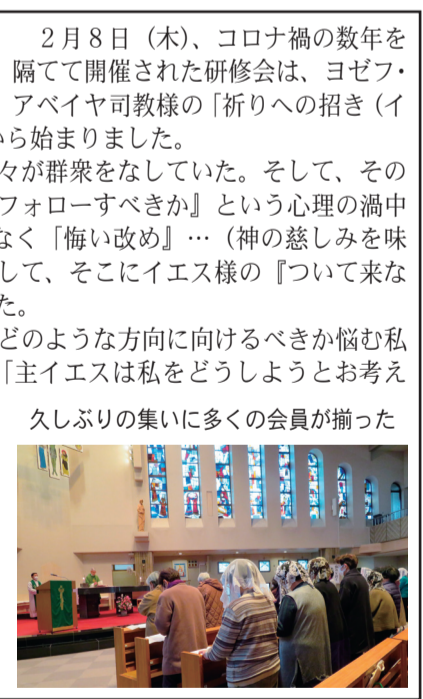
2月23日(金・祝)、24日(土)に新田原、行橋・豊津教会合同の青年の集いが新田原教会にて開催されました。「イエス様と私たち」というテーマのもと8人の青年が集い、共に祈り、交流を行いました。1日目は、最初にレクリエーションを行い、体を動かしたり、ジェスチャーゲームなどを行い、「コミュニケーションを取ることで少しずつ緊張がほぐれていったのではないかと思います。その後ヨハネによる福音書13章にあ

る、イエス様が弟子たちの足を洗われた箇所を用い、井手神父様による講話、分かち合いを行いました。それぞれ想いやエピソードなどその場に集った全員と共有することができました。夕の祈りでは聖体賛美式を行い、全員で声を合わせて聖歌を歌い、普段とは違った時間を過ごすことができました。2日目は映画「アメイジン グ・ジャーニー 神の小屋よ」を鑑賞し、感想などを分かち合いました。その後派遣のミサに与かり、2日間のプログラムを終えました。

最近ではコロナ禍にあった頃の規制が緩和され、コロナ禍以前の生活を取り戻そうとしています。徐々に青年活動を開始しているところですが、様々な事情で青年が集まらないうことも多々あります。そんな青年がまた教会に来た時、迎え入れることができる環境を整えておくことが重要なことではないかと思えます。新田原教会 岩崎聖司

新田原・行橋・豊津教会
3教会合同で青年の集い

2月8日(木)、コロナ禍の数年を隔てて開催された研修会は、ヨゼフ・アペイヤ司教様の「祈りへの招き(イエスとの出会い)」と題するお話から始まりました。「まず、『時代に疑問を持つ』人々が群衆をなしていた。そして、その群衆は『何によって、どのようにフォローすべきか』という心理の渦中にあつた。それは、『裁き』ではなく『悔い改め』…(神の慈しみを味わうため)…のものであつた。そして、そこにイエス様の『ついて来なさい』が始まった」と話されました。日頃、ミサの中で、自分の心をどのような方向に向けるべきか悩む私ですが、ここまでのお話の中で、「主イエスは私をどうしようとお考えなのか」が少し分かるようになりました。私たち会員が奉仕をする理由は何でしょうか。「主イエスの様になりなさい」ではなく、「主イエスの慈しみの手伝いをしなさい」だと思います。そして、そのように日々行動していきたいと思



久しぶりの集いに多くの会員が揃った

☆病と老いと死、とその後の「いのち」 森一弘(著)



BOOK 読み専科

広告掲載をご希望の方は下記までお問い合わせください
福岡教区本部事務局 広報部
電話 : 092-522-4059
メール : cdf-kouhou@nifty.com
※この枠で1回(ひと月)5,000円の献金(目安)をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さんと一緒に働いてみませんか
URL : http://www.st-mary-med.or.jp/

税込価格1540円
女子パウロ会発行

年間目標

互いに支え合う 交わりの教会となる

「カタラント」

福岡教区青年センター 開設準備進行中!

現在福岡地区青年会が中心となり、福岡教区青年センター(名称:カタラント)の開設に向けて準備を進めています。本センターは大名町カテドラルセンター内に設置され、大名町教会とのつながり・話し合いを大切にしながら、指定の曜日と時間にはスタッフが常駐する、福岡教区在住の青年たちの自由な集いの場として活用される予定です。

このような青年たちのための場所は、京都や大阪など何か所かあり、以前にも福岡に作る動きはありましたが、新型コロナによる自粛期間に重なり、なかなか設営できずにいました。

ようやく活動が再開できるようになり、更に宣教司牧方針の後押しもあって本格的に準備が始まり、昨年末のプレオープンでは実際にスタッフが常駐して夕飯会や会議の場として使用するなど、運用するにはどのような設備やルールが必要かを確認しました。

また、本センターは教区の青年と海外出身の青年たちが共に集えるインターナショナルな場所を目指しており、4月28日14時の大名町教会のインターナショナルミサの後にはセンターのお披露目パーティも企画されています。新年度を迎え、進学・就職などで地方からくる青年もいると思うので広く交流できる場としてもこのセンターを活用できればと考えています。

今後は、青年たちにこの場所の存在を広く知ってもらい、気軽に利用できるような企画等を通して、「ここに来れば誰かいる」安心感のある居場所が作れるよう準備を進めていきます。お披露目パーティはどなたでも参加自由ですので、ぜひお立ち寄りください。

峯 晶子 (笹丘教会)



絶賛準備中! みんな「カタラント」!!

“聖書 100 週間”のお知らせ

「聖書 100 週間」は、旧約と新約聖書を約 100 週間(3 年ほど)かけて読んでいくものです。

[日時] 4月5日(金) 14時から ※第1回は説明会です。

[場所] 旧福岡カトリック神学院 [同伴司祭] 大山悟神父(サン・スルピス司祭会) [問合せ先] TEL090・5937・0301 大山



西原村 2024 棚田オーナー制度のご案内

2016年4月の熊本地震以来、つながり続けてきた西原村よりご案内が届きました。1つの田んぼを舞台に、西原村の農家の方々と協力して、田植えやサツマイモ、落花生の作付けを行い、秋には収穫を体験する参加型、体験型のオーナー制度です。

※詳細は教区ホームページ、または右記QRコードからご確認ください。



召命を共に祈る会

福岡地区 4月16日(火) 13時30分~ 大名町教会 [問合せ先] ☎092・921・4532 山口

北九州地区 4月13日(土) 14時~ 小倉教会 [問合せ先] ☎0949・24・9905 藤井

熊本地区 4月は休会です。

各種団体の定例会

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報4月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区・広報室からのお願い

広報委員会・教区報部では、教区報の読者アンケートを行います。用紙は各教会に配布したもの、もしくは教区ホームページかQRコードからご覧ください。多くの声をお聞かせいただければ幸いです。



福岡教区広報室アドレス https://fukuoka.catholic.jp E-mail:cdf-kouhou@nifty.com



案内板

会合と催し

4月のこよみ

「袴田事件」とは何か? ~生命の尊厳と死刑廃止

主催:カトリック福岡司教区社会福音化委員会 正義と平和・人権部門(社会福音ネットワーク・福岡)

「袴田事件」とは1966年、みそ製造会社の専務一家4人が殺され、従業員だった袴田巖さんが「プロボクサーだから」という予断と偏見で逮捕起訴された冤罪事件です。2014年3月、再審開始と釈放を決定されましたが検察側が抗告し、再審公判が続いています。袴田さんは3月で88歳、1984年に獄中でカトリックの洗礼を受け、死刑囚のまま姉の秀子さん(91)と故郷で暮らしています。

[日時] 4月27日(土) 午後2時~同4時半 [場所] カトリック大名町教会 大聖堂 [内容] ゲストトーク:袴田秀子さん(巖さんの姉)、ビデオ上映他 [問合せ先] TEL 090-6775-4268 (青木)



真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 真の幸せへの道 日時: 4月11日(木) 10時~15時 内容: 「悲しむ人々は、幸いである」 指導者: C.クラウディオ神父(聖ザベリオ宣教会) 次回: 5月9日(木) 10時~15時 内容: 「柔和な人々は、幸いである」 指導者: Sr.マリア・デ・ジョルジ(マリア布教修道女会) 問合せ先: 真命山諸宗教対話センター ☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186 熊本県玉名郡和水町疋浦1391-7 E-mail shinmeizan@gmail.com ☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

集いの詳細は、各問合せ先に、お尋ねください。美野島司牧センター ホームレスの方に温かい食事と衣類 毎週火曜日10時 ホームレス支援炊き出し調理 毎週金曜日14時~夜回り 21時から 路上からアパートに入居し

Differences between African Churches and Japanese Churches Ugbor, Esther Nkiruka (Nigeria)

Ms. Ugbor, Esther Nkiruka, who is from Nigeria located in West Africa, attends Mass at Daimyomachi Church. She wrote about the differences between African churches and Japanese churches (differences in the usual Mass, Easter, and church community), and about the positive and difficult aspects of keeping her faith in Japan.

< Differences between African Churches and Japanese Churches >

Africa: The church has a long history; it came with European colonial masters.

Japan: The church equally has a long history, but faced persecution from Japanese authorities who associated it with western colonialism.

Africa: The church has extremely large population size. Christianity is one of the major religions in Africa.

Japan: The church has small population. Christianity is a minor religion in Japan.

< Differences in Mass, Easter and church communities >

Mass in Japan: It is usually quiet with hymns and songs deliver in Japanese and occasional English translations.

Mass in Africa: Vibrant worship style combined with energetic dancing, music, etc.

Easter in Japan: It is not a public holiday; it is observed by Japanese Christians only.

Easter in Africa: It is a public holiday in many African countries. Many African countries declare Good Friday and Easter Monday Public Holiday.

Church communities in Japan: They are more private; they provide community service programs for their members or marginalized groups only.

Church communities in Africa: They are more public; they build schools, health centers, or even participate in politics.

< Positive and Difficult Aspects of Maintaining my Faith in Japan >

Positive: I learn about other cultures and inter-religious tolerance.

Difficult: I face language barrier and religious misunderstanding.



My Hometown Church; Nsukka Enugu, Nigeria. 筆者の故郷の教会

※日本語訳は右記 QR コードからお読みください。



私たちと一緒に おはなしませんか? 安心してお話が出来る人をお探しの方へ。メール: hanahanahimawari2020@gmail.com ☎: 080-4735-6971 (9:00-21:00) ※対応できないときもあります。 ※原則1回30分です。 LINE 右記 QRコード 一ぶろじえくとHana 一ぶろじえくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍しています。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

福岡教区セクハラ対応窓口 セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談 セクシュアル・ハラスメント相談窓口 電話 080-2694-4182 受付時間 月~金(祝日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00

編集後記 今春、教区の青年センターが開設されます。その名称は「カタラント」。福岡教区のある家でミサと礼拝の必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。 [問合せ先] ☎080・4735・6971 1礼拝会

から、「加わらないの? 加わらない」という意味もかかっています。さらに青年たちの素晴らしいところは、この「カタラント」には「タラント」、聖書の中のとえ話に出てくる、あの「タラント」もお金も含むというのです。何という彼らの発想力! それぞれがいたいたいたタラントを、地中に埋めることなく存